

働きたい気持ちと向き合ってきた「これまで」と「これから」

～就労選択支援を通して考える、意思決定支援の本質～

M ネット東遠 平野潔

1、はじめに（今テーマの経緯）

今年10月に施行された「就労選択支援事業」は、障がいのある方の「働きたい」という思いに寄り添うことを目的とした新たな制度です。その背景には、従来の就労アセスメントが形式的になり、本人の意思や希望が十分に反映されていないという課題がありました。支援の現場でも、制度や支援の枠組みが本人の思いを置き去りにしてしまう場面が見受けられ、支援の本質を問い直す必要性が高まっていました。

本分科会では、制度の仕組みや給付構造の理解に重点を置くのではなく、制度が生まれた背景にある地域の課題や、障がいのある方の権利擁護に対する意識に焦点を当てて進めていきます。特に、就労支援部会としては、日々の支援の中で出会う「働きたい」という思いに、私たち支援者がどのように向き合い、受け止めてきたかを振り返り、それを自己実現へとつなげる支援の在り方を改めて考える機会としたいと考えています。

「働くこと」は、収入を得る手段にとどまらず、自己肯定感や社会とのつながり、役割の獲得など、人生の質に深く関わる営みです。だからこそ、支援者には制度の枠を超えて、本人の語りきれない思いや背景に寄り添いながら、その人らしい「はたらく」を共に模索する姿勢が求められます。今回の分科会では、意思決定支援の本質とその重要性を再認識し、支援の在り方を点検する視点を持つとともに、就労選択支援がもたらす地域社会へのポジティブな変化にも目を向けていきます。制度理解の深化を目的とす

るのではなく、支援の本質を見つめ直す時間とすることを目指します。

2、相談支援事業所からの事例報告

M ネット東遠 平野潔氏

『相手の立場から見つめる、3つの「はたらく」～就労支援を考える～』

話題提供では、M ネット東遠の平野潔氏が、相談支援の立場から「はたらく」という営みに対する支援の本質について提起します。制度や仕組みにとらわれることなく、障がいのある方が抱える「働きたい」という思いに、支援者がどう向き合い、どう受け止めていくかを問い直す内容です。

就労選択支援事業の機能や意義を、単なる制度活用の枠にとどめるのではなく、実際の事例を通して、本人の意思決定を尊重し、自己実現へとつなげる支援の在り方としてどう捉えるかを考える機会となります。

現場で語られる本人の思いとは？それに応える事業所は？支援者は？どう考え、どう受け止めるのか？赤裸々に語られる事例に私たちは何を考えるのか？

支援者として、目の前の利用者の背景や語りきれない思いに寄り添いながら、「はたらくこと」の意味を再確認し、日々の支援の質を高めていくための視点を共有します。参加者それぞれが自身の支援を振り返り、支援者としての姿勢や役割を見つめ直す契機となることを目指します。

就労選択のまえに

～ 考えておきたい、ふたつのこと ～

社会福祉法人Mネット東遠 平野潔

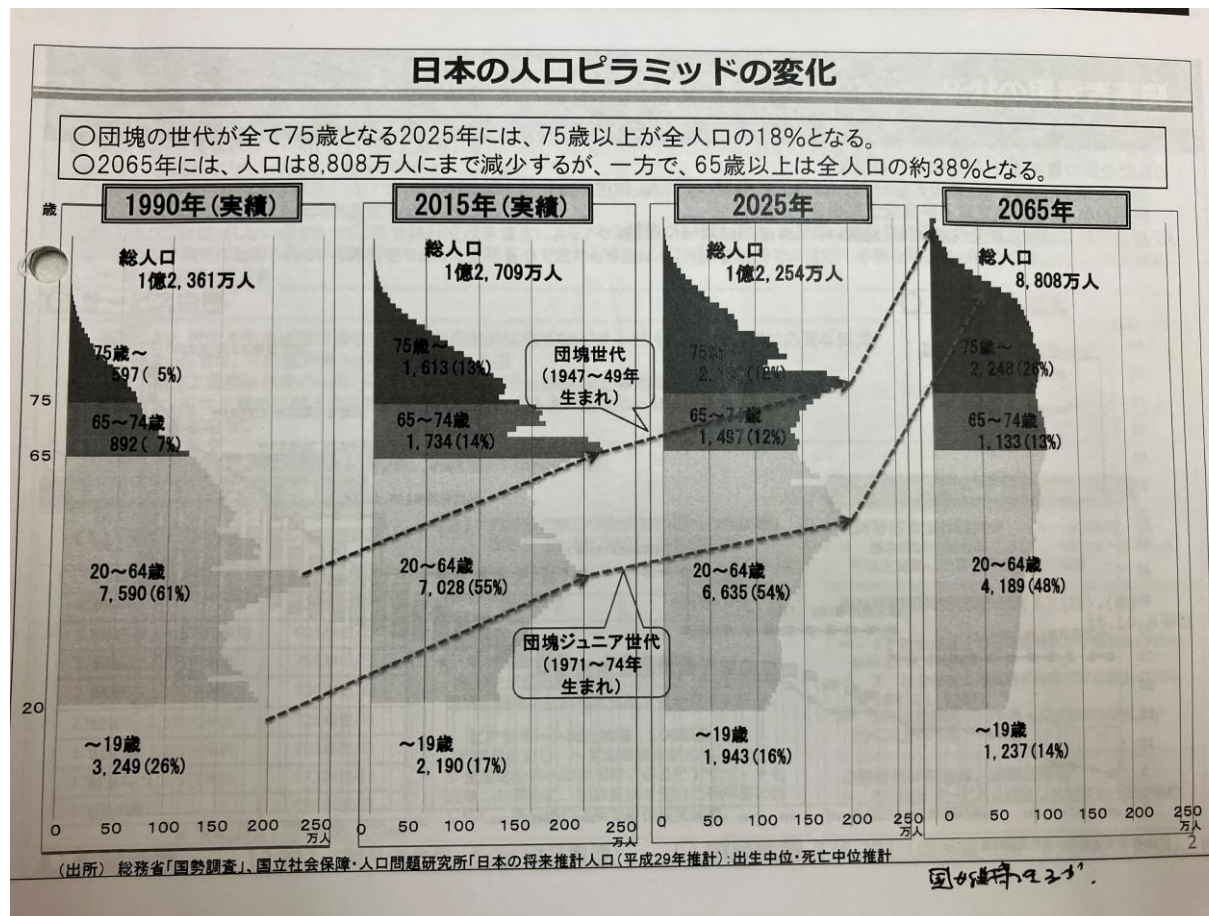
自己紹介



今日お話ししたいこと

1. 就労選択支援に思うこと。
2. 「はたらく」ということの意味を考える。
3. 「意思を決定する」ということを考える。

1. 就労選択支援説明会



専門官が最初に言ったこと。

「人口の高齢化に伴い、我が国の生産人口はどんどん減少しています」

「このままでは国が維持できない」

「障害をお持ちの方にも、この国を支えてもらわなければならない」

そこから、来たか。

それは現実だと思う。

（かくゆう僕も、もうすぐ支えられる立場に・・・）

障害のある人もない人も、はたらきやすい社会になったらいいなあ。

でもね・・・。

- 今の教育、福祉、労働体制の中に、
障害を持った人たち
抽象的に思考することが難しい人や、主体性をはく奪されてきたような人たちに、
- いわゆる
『労働』のみを推奨するだけで、
国力はあがるのだろうか？って。

就労選択支援は・・・

- 仕事のあっせん
- 納税者にさせるということ？
- はたらくカタチのランク付け

こうはならないと思うけれど・・・

じゃあ、なくて・・・

- 個々人の「はたらく」という
人生にとって大切な意思決定のために…

はたらくということがどういう意味を持つのか

その決定のための理解や支援をどう深めるのか

そこも含めて、みんなで行っていかないと。

2. 相談の立場から見つめる、3つの 「はたらく」

いま、関わっている3人を通じて、学んでいること。

① 彼女がシゴトを辞めたワケ

- お金を稼ぐことだけを目的に、人は働き続けることはできないのではないか。彼女は、そこに、気づいた。
- なぜ、はたらくのか？を学ぶ機会がない人たち。
- 誰が、就職したのか？家族？支援学校の先生？福祉関係者？
…就職が、特支の、障害を持つ人たちの、目標なの？

② 「一度でいいから…バイトしてみたい」

- 彼の人生を、想う。

「楽しかった」という言葉の、重み。

- 就労支援で著名な方が言いました。

『よく特支の先生とかが実習先を訪問して「どう？楽しい？」って生徒さんに聞くけど、そもそも仕事なんて楽しいもんじゃないでしょ？』

そうだよなぁって思っていたけど

… 楽しくって、いいじゃん。

③ ここに来て…良かった。

- ご両親の思いの変化。
- 彼自身の、思い。
- 人の中に、役割をというつながりを持つ。
- どこに、しあわせを見出すことができるか。
… あたりまえって、何だろう？

3. 意志を決定すること。

とある専門職研修会で、思ったこと。

イギリス意思（決定）能力法

- Mental Capacity Act. 2005（はじめ諸ガイドライン）
- 『判断能力が不十分な人、どんなに重度の人でも、その人には意思があり、その決定能力を有するということを前提として、本人の意思・意向・選好を確認し、それを尊重した支援・対応を行う』
- 本人の中に埋もれる『意思』を見出し、支援していくことが専門職としての責務である。

- 抽象的に、思考することが難しい人たち。
- 病や障害ということで、主体性を奪われてきた人たち。
- お手伝いの仕方は個別

- 決定のプロセス

狩猟民族 ⇔ 農耕民族

個別的 ⇔ 集団的

- 日本人なりの、意思の決定のしかたがあるのではないか。

<あいだ>にある意思決定



意思とは何か？

- 僕たちは、本当の意味での意思決定って、してるのかな？
... そこに思考は必要とするのかな？
- 多くの・ほぼ全ての決定に関して、既に選択肢は存在している。

それらをチョイスするだけ。

- 意思決定は、選択の集大成。
- 選択の豊かさを決定するのは、その人にどれだけの選択肢があるかということ。

= その人に、対人関係を主とする

どれだけ多くの情報アクセシビリティが存在するか。

生きた情報とは何か

- 情報を収集し、自身に有益なものか否かを分析するような能力
- 時間軸を通じて、自分にどう作用するのかを考える抽象的概念力
- 自我の未成熟や、障害により他者性を帯びた状態
- 自己内面の揺らぎやすさ
- 主体性や決定権そのものをはく奪されてきた

… その人に届かない、生きていない情報

質より量の関係性

- 「ねえねえ、今日研修終わったら、一杯行かない？」
（うーん、妻に早く帰って来いって言われてるけどなあ…）
- 「いいですね。行きましょう！」
（結局、妻に叱られて後悔）
とか、
- 「私、麻辣湯食べたいっ！」
- 「あ、僕も、それ…」
（辛いっ、やっぱりラーメン食べれば良かった…）

- 周囲との関係性＜あいだ＞の中で、我々は選択や決定を、行使する瞬間まで、否、行使した後においても優柔不断に変化させているということです。
- 情報（選択肢）は身近なところで現実的に使われてこそ、選択が可能になる生きた情報となるのです。
- 本人の周囲でどれだけ選択/意思決定が積極的になされているか…それが良い結果を生もうと、その逆であっても…という経験を重ね、その影響を受けているかも大切な要素です。つまり、質よりどれだけ経験が身近にあったか、ということになるでしょう。

支援者の陥る『葛藤』

- 我々支援者は、どうしてもその選択肢を『質の良い』ものにしようとしてしまいがち。
…質の悪い・誤った選択肢を提供してしまうことを専門家として恐れてしまう。
(無意識にパターンリズムを強要している?)
- さらにその選択肢を、なるべく限定して提供するのには、本人が失敗してしまうことを恐れていることに加え、そのフォローをも取り返しのつかないことになってしまうと考えるから？

ちょいワルな情報＝魅力的

- 支援者に隠れてひっそりとやり取りされるような関係性を、我々は眉をひそめて見てしまいがちですが、例えば無責任で、思い切りのよい行動は、仲間内で「カッコいい」と称賛され、伝播していきます。
- 責任というバイアスがかからない、良い意味での無責任な関係性。
 - … この関係性こそが一番のポイントなのかもしれません。

関係の持つ『相互性』

- 何らかの形で関係を持つ、人と人との＜あいだ＞には必ず相互的に影響が生じます。
- 何らかの影響を受けゆらぎながらも、最終的にはそれが各々の人生の糧となっていくことを信じるということ・その覚悟を持って支えていくということこそが、専門家に課せられた命題だと捉えています。

『期待』ではなくて、『希待』

改めて我々の職務とは

- 意思決定支援とは（ガイドラインに先立って）
本人の周囲に（量的に）どれだけ豊かな関係性を構築していくことができるかということ。

福祉サービスの事業所＝

沢山の関係性＜あいだ＞を生じさせる『場』としての役割。
… その保障をしていくことも我々の職務。

まとめ

- 意思とは本人の内にあるものと、さまざまな関係性の＜あいだ＞に生じる『現象』
- 決定とは、多くの相互性の中で量的な影響を受けながら醸成されるもの

… その『場』や機会を保障し、その可能性を信じて共に迷いながら待つことこそが、支援ということなのでしょう。

ご清聴ありがとうございました。

